



# 御堂筋 の キャリア

江戸時代には水運の要として大繁盛した淀屋橋は、お米をはじめ各地の特産物の陸揚げと陸送の拠点であったが、今はキャリアアウマン、ビジネスマンのデートスポットであり、貴重な喫煙コーナーになっているようだ。土佐堀川によって

クラシックな街灯、大正モダンな日本銀行、市民のシンポルの大阪市役所と、改装された旧中之島公会堂がやや遠くに見える、大阪で一番落ち着いた都会的憩い空間ではないだろうか。

人待つ仕事はさまざまだが、その大方は喫煙かケ

最近、橋が疲労亀裂で真っ二つに折れて崩壊し、死傷者が大勢出る事故がアメリカで発生した。アメリカは2年に1度の検査、日本は5年に1度の検査の制度になっているようだ。日本の橋は大丈夫だろうか。ニュースは指摘していた。ここにも日本の危機管理意識の希薄さが浮かぶ。

ニュースは続く。現在、全国に14万基の橋があるが、50年以上経過しているもの

## 大阪で一番落ち着く空間

1タイである。昔と違って喫煙場所が限られているので、この開放的なスペースの一角に喫煙スタンドを設置してあげたらどうかと情願してしまふ。清濁混合、同居も時にはよいのではないか。一方で、ケータイとは、異様にさえ感じる時がある。外国人なら一層、そう思っているかもしれない。大人にとってケータイは、赤ちゃんのおしゃぶりのような役割を果たしているの

視界が広がるので、開放感に浸る格好の憩いの場であり、ビジネス街が近いのでアフターのスタートラインでもある。ここに立つ人たちの表情は、どなたも明るい表情が多いように思われる。熟年に親しまれてい

が8万8000基。寿命は70年といわれているが、金属疲労による亀裂、崩壊は経済成長と比例する交通量の増加などを勘案すると、70年の寿命は疑ってみる必要がある。公共物も生きものと考え、情勢変化によってメンテナンス基準をフレキシブルに変える姿勢が大切だと思う。人間の命も公共物の命も、使われ方で決まる。このデートスポットも永遠ではないのだ。

### メモ

淀屋橋は江戸時代初期、豪商・淀屋が米市に集まる商人たちのために私費で建設。豪華な生活をとがめられた淀屋の追放処分後も、橋の名だけが残った。現在の橋は、御堂筋拡幅工事に合わせて架け替えられ、1995年に完成。拡幅前の御堂筋は「淀屋橋筋」と呼ばれており、名実ともに御堂筋の拠点といえる。

